

10月は3R推進月間です

3Rとは環境と経済が両立した循環型社会を形成していくためのキーワードとして、Reduce（リデュース：廃棄物の発生抑制）、Reuse（リユース：再使用）、Recycle（リサイクル：再生利用）の頭文字をとったものです。優先順位はReduce>Reuse>Recycleです。

平成25年度

長野県循環型社会推進大会



開催レポート

『もったいない』を大切に、信州が誇るライフスタイルを！

日時：平成25年10月17日（木）13:30～16:10（開場13:00）

場所：ザ・ハーモニーホール（松本市音楽文化ホール）小ホール

プログラム

●開会（13:30）

・主催者あいさつ（長野県環境部長 山本浩司、信州豊かな環境づくり県民会議会長 鵜飼照喜）

●循環型社会形成推進功労者知事表彰

●事例発表

- 1 「松本市消費者の会波田地区の不用食器回収活動」
松本市消費者の会波田地区 代表 織田 ふじ子 氏
- 2 「レジ袋削減に向けた県内の取組」
 - ・長野県レジ袋削減を進める県民の会 事務局 小松 由人 氏
 - ・長野県A・コープ 店舗運営グループ マネージャー 今溝 和伴 氏

●講演

演題 世の中で大切なもの 「環境・健康・人間味」

講師 落語家・3R推進マイスター 桂 文喬 氏



●パネル展示 13:00～16:10

- ◇長野県 ◇信州豊かな環境づくり県民会議
- ◇長野県リサイクル資材協会

開会あいさつ

長野県環境部長 山本浩司

信州豊かな環境づくり県民会議 会長 鵜飼照喜

山本部長



○長野県循環型社会推進大会は、10月の3R推進月間に合わせて実施しており、今年で7回目の開催。

○資源循環型社会を形成するため、暮らしの中にリデュース（減らすこと）・リユース（再使用すること）・リサイクル（再生利用すること）の、「3R（スリーアール）」の理念の浸透を図り、県民、事業者、行政が、廃棄物の発生抑制や再資源化に共に取り組む社会づくりを進める必要がある。

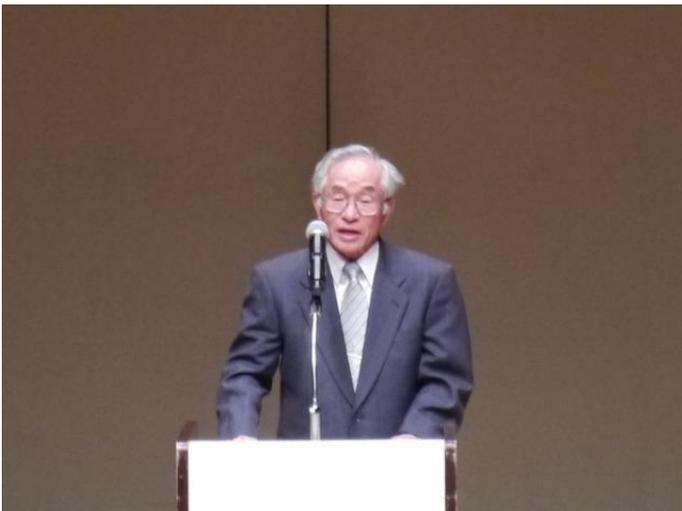
○今月2日には消費者団体・事業者・行政の3者共同で「レジ袋削減協働アピール」を行い、不

要なレジ袋の削減に向けた取組が一段と強化されることとなった。

消費者の目標「マイバッグ持参率80%」、事業者の目標「レジ袋総使用量の前年度比削減」の達成に向けて、県も市町村とも連携しながら支援していく。

○また、食べ残しを減らそう県民運動、リサイクル製品の使用、環境美化活動等に関しても、県民、事業者、行政が一体となって、真の循環型社会に向けた取組を進める必要があるため、理解と協力を願うとともに、本日の大会が、改めて3Rの必要性や実践方法を認識する機会となることを期待する。

鵜飼会長



○信州豊かな環境づくり県民会議は、「地球温暖化防止運動」、「省エネ活動等の環境配慮に向けた一層の取組」、「循環型社会形成に向けた取組」、「水資源の保全に向けた取組」等を本年度重点取組事項として掲げ、自ら環境保全に取り組むとともに、県民の意識の高揚を図る取組を進めている。

○循環型社会を形成するためには、県民・事業者・行政が、それぞれの役割を踏まえつつ、一体化して進めていくことが重要である。

○レジ袋削減の取組は、信州豊かな環境づくり県民会議から始まったもので、官民三位一体と

いうことで、事業者、消費者、行政、この三者の立場や特徴を活かしながら、一体となって取り組んでいくということを繰り返し強調してきた。

○本日の参加者が行っている地道な取組が、豊かな信州を作る一番大事なものになると考えており、循環型社会を一步一步作り上げていくものになると確信している。

循環型社会形成推進功労者知事表彰

「循環型社会形成推進功労者知事表彰」は、廃棄物の適正処理や減量化・資源化の分野において、取組を推進し、啓発、指導、教育など活動を継続し、すぐれた功績を挙げている事業者、個人、グループ及び学校等を表彰するもので、平成16年度から実施しています。

平成25年度は、「事業者の部門」において3名、「個人・グループ・学校の部門」において4名、その他の部門において1名、合計8名の皆様へ知事表彰が授与されました。

(敬称略)

部門	被表彰者名	所在地等	活動の概要
事業者	新光電気工業 株式会社 更北工場	長野市	自社の「環境方針」等を制定するとともに、ISO14001を取得するなど、環境負荷の低減と省資源化に尽力。廃棄物の分別及び再資源化等の廃棄物の適正処理や、工場周辺の清掃等にも取り組んでいる。
事業者	木下建設 株式会社	飯田市	産業廃棄物の収集運搬業を行うとともに、地域では先駆けてISO14001を取得し、現在は「南信州いいむす21 ISO14001 南信州宣言」の適合確認を受け、地域ぐるみで地域の環境美化活動等に積極的に参加するなど、循環型社会形成の構築に取り組んでいる。
事業者	株式会社 光商会	木曾町	産業廃棄物の収集運搬業及び処分業を行うとともに、エコアクション21を取得するなど関係法令を遵守し適正処理に努めているほか、地域の環境美化活動等に積極的に参加するなど、循環型社会形成の構築に取り組んでいる。
個人・ グループ・ 学校 (グループ)	松本市消費者の 会波田地区	松本市	前身の波田町消費者の会の頃から、様々な環境活動を行ってきた。不用食器を食器の再生原料としてリサイクルし、廃棄物の節減と資源の有効活用を実現したほか、他の地域や自治体への普及啓発にも取り組んでいる。
個人・ グループ・ 学校 (個人)	宮嶋 千冬 (みやじま ちふゆ)	松本市	永年にわたり地区町会衛生部長として、環境美化のため一日清掃等の清掃活動に率先して取り組んだ。ごみステーションの管理、ごみ分別指導、リサイクルの推進等廃棄物の減量化に取り組むなど、住民の模範となっている。
個人・ グループ・ 学校 (個人)	都筑 陽一 (つづく よういち)	松本市	永年にわたり地区町会衛生部長として、環境美化のため一日清掃等の清掃活動に率先して取り組んだ。ごみステーションの管理、ごみ分別指導、リサイクルの推進等廃棄物の減量化に取り組むなど、住民の模範となっている。
個人・ グループ・ 学校 (個人)	高橋 教保 (たかはし のりやす)	松本市	永年にわたり地区町会衛生部長として、環境美化のため一日清掃等の清掃活動に率先して取り組んだ。ごみステーションの管理、ごみ分別指導、リサイクルの推進等廃棄物の減量化に取り組むなど、住民の模範となっている。
その他	宮澤 昇太郎 (みやざわ しょうたろう)	大町市	永年大町市職員として廃棄物行政に従事。不法投棄防止や廃棄物の適正処理及び啓発に取り組んだ。廃棄物処理施設技術管理者として一般廃棄物最終処分場の適正管理に尽力。市民の快適な生活環境維持のため清掃業務に貢献した。

○山本部長から知事表彰授与



○株式会社光商会

代表取締役 加藤 相哲 様 謝辞



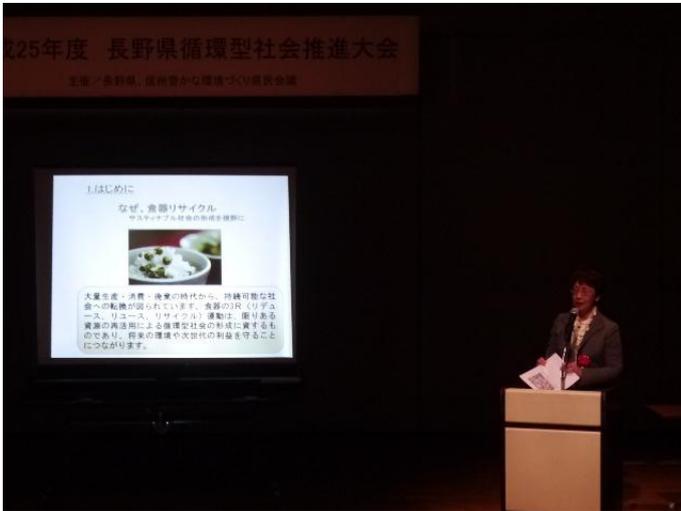
○受賞者、鵜飼会長、山本部長で記念写真



事例発表

テーマ／松本市消費者の会波田地区の不用食器回収運動

発表者／松本市消費者の会波田地区 代表 織田 ふじ子 氏



○生活の中で割れたり、使用しなくなった食器を3R活動することで、廃棄物の減量や資源の有効活用につなげている。

○取組の概要

- ・平成19年合併前の波田町消費者の会として不用食器の回収に取り組む。
- ・消費者、生産者、行政のネットワークを構築。
- ・平成25年までの7年間に、リユース5トン、リサイクル43トンの成果。
- ・県内7市町村に普及拡大。

○なぜ不用食器回収なのか

- ・消費者の思い：大事な道具をゴミにしたくない。もったいないという気持ち。
- ・処分場のひっ迫：食器のほとんどが埋め立て処分。
- ・陶器産地の事情：陶磁器の原材料の枯渇。海外製品との競争。

↓

消費者と生産者をつなぐ。

○連携と役割分担

- ・消費者の会が中心となって、不用食器を回収。状態の良い物は無料配布（リユース）。
- ・生産地への輸送は、企業のボランティアや行政に依頼。回収の周知は行政が広報で行う。
- ・陶磁器産地（美濃焼地方）では、破碎しリサイクル食器の原料等に。

○対面回収の必要性

- ・再生食器の安全性を確保する観点から、食品衛生法で安全が確認された不用食器のみを回収。
- ・ガラス、プラスチック、土鍋、耐熱容器等は回収できない。
- ・歴史的な価値のある食器を分別できる。
- ・にぎわいやコミュニケーションのある風景の創出。

○不用食器回収の魅力

・地域の中に「もったいない」という精神が息づいている生活文化があり、人がボランティアで関わるという精神的豊かさを併せ持った活動であること。

事例発表

テーマ／レジ袋削減に向けた県内の取組

発表者／長野県レジ袋削減を進める県民の会 事務局 小松 由人 氏

長野県 A・コープ 店舗運営グループ マネージャー 今溝 和伴 氏

○小松氏 レジ袋削減に向けた取組について、消費者の立場から報告



- ・平成 24 年 9 月の長野県知事による無料配布中止宣言より前から、消費者団体連絡協議会として県や事業者働きかけ。
- ・平成 25 年 5 月に長野県レジ袋削減を目指す県民の会立ち上げ。3 年以内マイバッグ持参率 80%を目指す。
- ・今後の課題は、レジ袋を削減することの意味を多くの方や事業者理解してもらうこと。
- ・事業者や行政機関と連携しながら取組を進めたい。

○今溝氏 レジ袋削減に向けた取組について、事業者の立場から報告



- ・平成 25 年 6 月 24 日から無料配布中止
事前に消費者への PR として、店内等のポスター掲示やチラシ掲載を行うとともに、マイバッグ、マイバスケットの配布を含めた普及を図った。
- ・県内資本の同業者の足並みが揃わなかったことが課題
消費者・市民団体、県のバックアップ及びキャラバン隊の取組、並びに来店してくれる顧客に感謝。

・レジ袋の販売価格を安めに設定してしまったことと、全店で実施できなかったことが問題点
消費者の節約志向と他社との競争が激しいことから、徹底に至らなかった。

・行政機関への要望

マイバッグ持参率 80%の目標を達成するためには、事業者の協力が不可欠なので、事業者が無料配布中止に参加しやすい環境づくりに向けた取組を、県に続いて市町村にも期待したい。

講演

テーマ / 世の中で大切なもの「環境・健康・人間味」

講師 / 落語家・3R推進マイスター 桂文喬(かつら ぶんきょう)氏

○プロフィール

大阪府立大学経済学部卒業後、桂文枝に入門。朝日放送落語新人コンクールで優秀賞受賞。毎年独演会を開催する傍ら上方落語協会理事を務める。

京都国際会議場で環境について語ったことを契機に環境問題に取り組み、平成19年10月から環境大臣より「容器包装廃棄物排出抑制推進員（3R推進マイスター）」に委嘱される。

本業の落語家としての活動のほか、環境問題、人権問題、男女共同参画等に関する講演会、テレビ出演など幅広く活躍中。



○師匠に弟子入りした際に、師匠の妻から節約することを教えられた。環境問題とかは関係なく、もったいない、物を大切にするという気持ちがあった。

○「味（趣味、興味、人間味）」のある人生を送ってほしい。

環境問題に関しては、「人間味」。自分だけならいいだろうという気持ちをやめること。

○環境問題は我々が生きている間にはあまり変わらないが、子孫の時代に付けが回る。地球を子孫に受け継ぐのではなく、子孫に借りている。借りているのだから、きれいにして返さなくてはいけない。

○一番いいのはリデュース（発生抑制）。2番目がリユース（再利用）で、3番目がリサイクルであるが、これが一番量が多くなってしまっている。

○リユースのうちリターナル瓶は簡単なでもっと増やさなければいけないが、利便性が良くなるにつれてどんどん減っている。

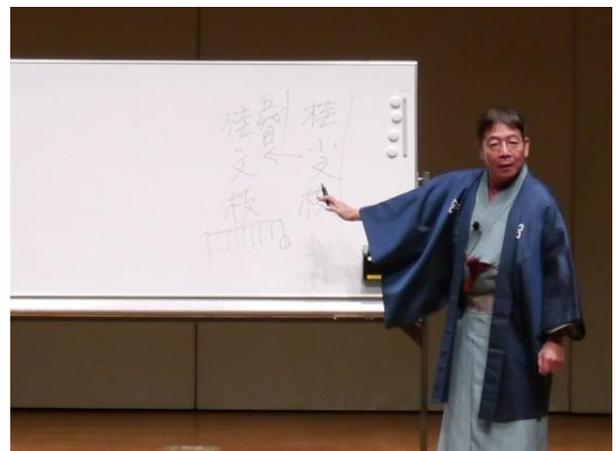
ビール瓶、一升瓶、牛乳瓶が、アルミ缶や紙パックに代わっていく一方で、スーパーで購入した瓶を近所の酒屋に返却して保証金をもらうようなことができなくなっている。

○3Rを推進しようとしても、実際には難しい。

国でも、地方自治体でもなかなかできない状況ではあるが、必ず方法はあるはずなので、不便になるかもしれないけれど、昔に立ち返ってみるという気持ちが必要。

○人生は、生まれた瞬間から死に向かって一直線に歩いて行く。一人ひとりの寿命はわからないが、絶対的な1時間、1分、1秒は一緒。自分の人生を充実したものにするためには、何かに打ち込み、何かに一生懸命になり、やりたいことをやる。

また、自分のことだけでなく、何か社会に還元して、社会に対して何か役に立つことを積み重ねることも必要。



ブース展示

長野県、信州豊かな環境づくり県民会議、長野県リサイクル資材協会

- 3R、レジ袋削減県民スクラム運動、食べ残しを減らそう県民運動の展示
- 信州リサイクル製品の紹介とリサイクル資材協会の展示
- 3R推進月間横断幕（会場内）

